

・

この写真は、北緯 67 度の北極圏に位置するスウェーデン北部ポルユスで撮影された、夏至前夜の白夜の風景です。画面左端には地平線すれすれの太陽が輝いていますが、時刻はなんと午前 1 時前後です。日本の感覚では深夜といえば真っ暗な時間帯ですが、この地域では夏になると太陽が地平線の下へ沈み切らず、一日中空が明るい状態が続きます。夏時間が採用されているため、太陽高度が最も低くなるのは真夜中ではなく午前 1 時頃となり、それでも日没には至りません。

空には夕焼けとも朝焼けともつかない柔らかな光が広がり、雲の下面が淡い桃色や黄金色に染まっています。太陽が低い位置をゆっくりと移動するため、このような色彩が長時間続くのも白夜ならではの特徴です。日本では数十分で終わる薄明が、ここでは何時間にもわたって続きます。湖面に映る光や森のシルエットも昼と夜の境界が曖昧で、時間の感覚さえ失わせるような不思議な景観をつくり出しています。

ポルユスは冬にはオーロラ観測地として知られていますが、夏にはまったく対照的な世界が現れます。暗闇を待っても夜は訪れず、太陽は北の空をかすめるように巡り続けます。この写真に写る静かな鉄路や湖畔の風景は、一見すると夕暮れのようにありながら、実際には新しい一日が始まろうとしている時刻です。北極圏の自然が見せる壮大な天文現象と、季節によって大きく変化する光の世界を象徴する一枚といえるでしょう。

(2026 年 6 月下旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測)

